



2017年度 プラン・インターナショナル 年次報告書

ANNUAL REPORT 2017
2016/7～2017/6



2017年度の
成果

4,026万
7,606人に支援

1,788
のプロジェクトを
実施

5万3,311
の村で活動

73万703人にジェンダー平等と
子どもの保護に
関するトレーニング
を実施

5万3,600人の政府や自治体、
企業、支援団体、
住民組織と連携

プラン・インターナショナルの2017年

第5回 国際ガールズ・デー (2016年10月11日)に 世界各国でアクションを実施

「Girl's Leadership (ガールズ・リーダーシップ)」とは、国際ガールズ・デーに合わせて、女の子がリーダーになる未来にむけて、女の子の可能性を発信するアクションです。プランが活動する世界55カ国で300以上のアクションを実施しました。最終的な目標はこの一日だけでなく、将来、女の子たちが社会的、経済的、政治的分野でリーダーシップを発揮できる未来を築くこと。女の子の可能性と女の子がリーダーになることの意義を世界に訴えるアクションとして継続していきます。

『未来を変える ガールズ・パワー 〜ルワンダの女の子たちを 迎えて〜』を開催

日本では東京・代官山でイベントを開催。ルワンダの中学生、レベッカさんとフランソワーズさんが「国際ガールズ・デー」に合わせて来日しました。2人は男の子と一緒に女の子への差別やいじめのない学校作りに取り組む話や自分の夢を語り、最後は日本の男子大学生と男女差別のない世界の実現を訴えました。また、東京大学東洋文化研究所教授の安富歩先生によるご講演やチャリティ・ラッフル(抽選会)など、盛りだくさんのイベントになりました。



1.大統領に女の子の問題を訴えました(ネパール)
2.一日大臣に任命された女の子たち(パラグアイ)
3.国連でスピーチするプランの活動地の若者たち(ニューヨーク国連本部)



4.Because I am a Girlエンジェルの森星さんとルワンダの女の子たち
5.スピーチをするルワンダの女の子たち 6.みんなで記念撮影

撮影：田村浩章／
プラン・インターナショナル

80周年の節目に、目標を設定。1億人の女の子を支援へ

1937年の創立から80周年を迎え、プランはこの節目に、困難な子どもたちや若者、とりわけ女の子への支援を強化することを明記した新しい目標を掲げました。2017年から2022年までの新しい「5カ年計画」では女の子たちの権利と公正な社会の実現を目指して、今後5年間で1億人の女の子たちの生活に変化を起すという目標を設定。今後もさらに支援を広げます。



日本事務局の職員が活動地域へ

現地駐在員に加え、合計25回、延べ30人を超える職員が日本事務局から活動地域に派遣されました。質の高いプロジェクトを実施するために、現地事務所と綿密に連携しながら、ニーズ調査や進捗管理などを行いました。子どもたちや地域の人々、地元の協力団体や行政官とミーティングを重ね、現場の声を直接聞く機会を増やしました。派遣先はアジアが最も多く、次にアフリカ、中南米と続きました。現地での体験や学び、課題などを機関紙のプラン・ニュースやウェブサイトで報告しています。

(写真上) 対象校の子どもたちとプログラム部の道山職員 (ジンバブエ)
(写真下) 衛生設備を作った学校に通う女の子に話を聞くプログラム部の澤柳職員 (ハイチ)



CONTENTS

02 活動のハイライト

04 ごあいさつ

06 数字で見るプラン

08 活動分野の成果

14 活動地域の
子どもたちから

16 プロジェクト報告
プラン・スポンサー
シップ

20 プロジェクト報告
Girl's Project

22 プロジェクト報告
プラン一般プロジェクトと
緊急支援

24 プロジェクト報告
プラン・マンスリー・
サポーター

26 活動を支えてくださる
方々や団体

28 活動を支えてくださる
企業のCSR

30 活動国の基本統計

31 日本のプランの決算報告

34 国際連結決算報告

35 プログラム費国別内訳



公益財団法人
プラン・インターナショナル・
ジャパン理事長

池上清子

Profile

いけがみ きよこ
2016年公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン理事長に就任。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）、国連本部、（公財）ジョイセフ、国際家族計画連盟（IPPF）、国連人口基金（UNFPA）を経て、現在、長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授、日本赤十字社理事、株式会社PSD（Partners for Sustainable Development）代表取締役社長。

日ごろからの温かなご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。皆さまのご支援で、2017年度（2016年7月～2017年6月）もプランは世界の子どもたちに確かな変化をもたらすことに専念することができました。ここに、その報告書をお送りします。

2017年度は私の理事長就任一年目でした。世界では、大きな自然災害に見舞われるとともにテロも多発し、政治の潮流も大きく変わりました。日本国内でも、子どもの深刻な貧困問題が表面化しました。国内外で課題が山積する今、よりよい世界への変革が必要です。公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンが、子ども、とりわけ女の子の問題にどのように取り組み、何を優先し、大切にすべきかを考え続けた一年になりました。

日本のプランでは質の高い活動の継続を「5カ年の事業計画」の基本戦略に位置づけました。そのために最も必要なことは日本でも活動国でも同じ、「人づくり」です。私が初めて訪問したプランの活動地域、ベトナムの少数民族の村では、素晴らしい若者たちが教師と

して活躍していました。彼らは都市部で学び、そこで得たものを自分の村に持ち帰り、子どもたちの未来のために必死に頑張っていました。私はそこに希望を見出しました。プランはそうした若い教師たちのトレーニングなどの支援を今も続けています。

意思決定機関としての理事会、さらに、実施機関としての事務局という組織運営で目指したことは、プランの目標や事業を見直すこと。理事を含む職員全員とのワークショップも実現しました。「持続可能な開発目標（SDGs）」が「誰も取り残さない」社会を目指すとしているように、大切なプロセスには全員が意思を表明すべきだと考えたからです。全員で課題の解決を考え、実践するための第一歩になりました。

これからも、「誰も取り残さない」世界の実現のために、皆さまとご一緒に社会を変革する人づくりを進めていきたいと存じます。何卒、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。



プラン・インターナショナル
理事長

ジョシュア・リスウッド



プラン・インターナショナル
最高経営責任者

アンネ・ビルギッテ・アルブレクトセン

世界中の多くの子どもたちに温かいご支援をお寄せいただいた、日本の支援者の皆さまに心からお礼申し上げます。

2017年度、プラン・インターナショナルは80周年を迎えました。スペイン内戦中の1937年に戦争孤児を救済する目的でイギリス人ジャーナリスト、ジョン・ラングドン＝デービスが設立した「スペインの子どものためのフォスター・ペアレンツ・プラン委員会」がプランの始まりです。最初の年に救済した戦争孤児は300人でしたが、今は世界70カ国以上で多くの子どもたちを支援できるようになりました。残念ながら、当時と同じような悲劇は今も繰り返されています。とりわけ弱い立場にある女の子の権利を守る活動が、今まで以上に必要とされています。

2017年度、プランは51の国や地域で89回の緊急支援を行いました。また、早すぎる結婚をなくすための活動を20カ国で展開し、マラウィ、ホンジュラス、グアテマラでは早すぎる結婚の違法化が実現しました。

Because I am a Girlキャンペーンは新たな

段階に発展しました。「質の高い教育」のみならず「女の子の権利と公正の実現」を目指し、社会に変革をもたらすことを目的としています。2016年の国際ガールズ・デー（10月11日）には、ネパールやスペインの政府高官や民間企業の最高幹部の役割を女の子が体験することで、女の子の能力や権利を阻む障壁をなくす必要性について、世界に訴えました。

しかし女の子を取り巻く厳しい現状は変わっていません。このままでいくと、2030年までに低所得国で、中等教育レベルの知識やスキルのない女の子が4億人に達すると懸念されています。プランは、国際社会に対して、教育の支援額を今の2倍以上に増やすことを求めています。

90周年にむけた新たな章が始まりました。最初の5年間は1億人の女の子が「Learn, Lead, Decide and Thrive（学び、先頭に立ち、自分で人生を決定し、差別や暴力のない環境で成長できる）」世界のために、活動を推進していきます。

引き続き皆さまのご支援をお願いいたします。



評議員名簿 ※全員非常勤

2017年11月1日現在

評議員会議長
評議員
松井 陽
飯田百合子
一井呉夫
甲斐田万智子
河口真理子
倉林栄一
佐藤大吾
平 久直
轟木洋子
畠澤 保
増田明美
宮代昌三
安田祥子

聖路加国際大学看護学部特任教授
トライプルー・ホールディングスPte.Ltd.最高執行責任者
株式会社AMS顧問
文京学院大学教授、認定NPO法人国際子ども権利センター（C-Rights）代表理事
株式会社大和総研調査本部主席研究員
日本AMC株式会社代表取締役
一般財団法人ジャパングビング代表理事
税理士
公益財団法人ジョン万次郎ホイットフィールド記念国際草の根交流センター事務局長
弁護士
スポーツジャーナリスト、大阪芸術大学教授
八丈ビューホテル株式会社代表取締役
声楽家

評議員 13 名

役員・顧問名簿 ※特に記載がないものは非常勤

2017年11月1日現在

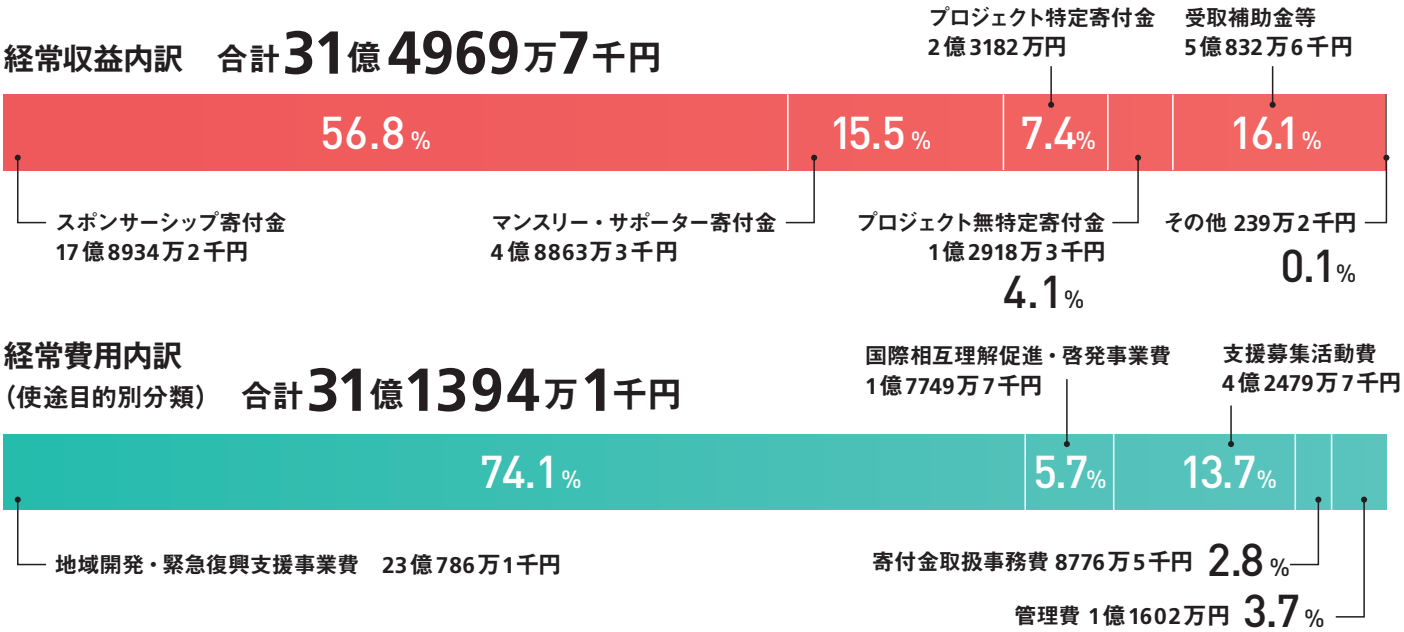
理事長（代表理事）
池上清子
長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授、日本赤十字社理事、株式会社PSD（Partners for Sustainable Development）代表取締役社長
副理事長（業務執行理事）
粗 信仁
政策研究大学院大学政策研究院参与
専務理事（代表理事）
棚田雄一（常勤）
公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン専務理事
理事
関西学院大学総合政策学部客員教授
大崎麻子
情報科学芸術大学院大学教授兼産業文化研究センター長
金山智子
公益財団法人公益法人協会常務理事・事務局長
鶴見和雄
山口大学経済学部教授（特命）兼副学長補佐
富本幾文
逗子フェアトレードタウンの会代表理事
長坂寿久
アジア アフリカ インベストメント アンド コンサルティング Pte. Ltd.ダイレクター
半田 滋
専修大学法学部教授
広瀬崇子
前都市総合サービス株式会社代表取締役社長
森 和之
元三菱商事株式会社役員待遇
湯川昌郎
公認会計士、税理士
中田ちず子
公認会計士、税理士
花本 猛
元国際協力事業団（JICA）総裁
川上隆朗

理事 12 名、 監事 2 名、顧問 1 名

2017年度 プラン・インターナショナル決算の概要

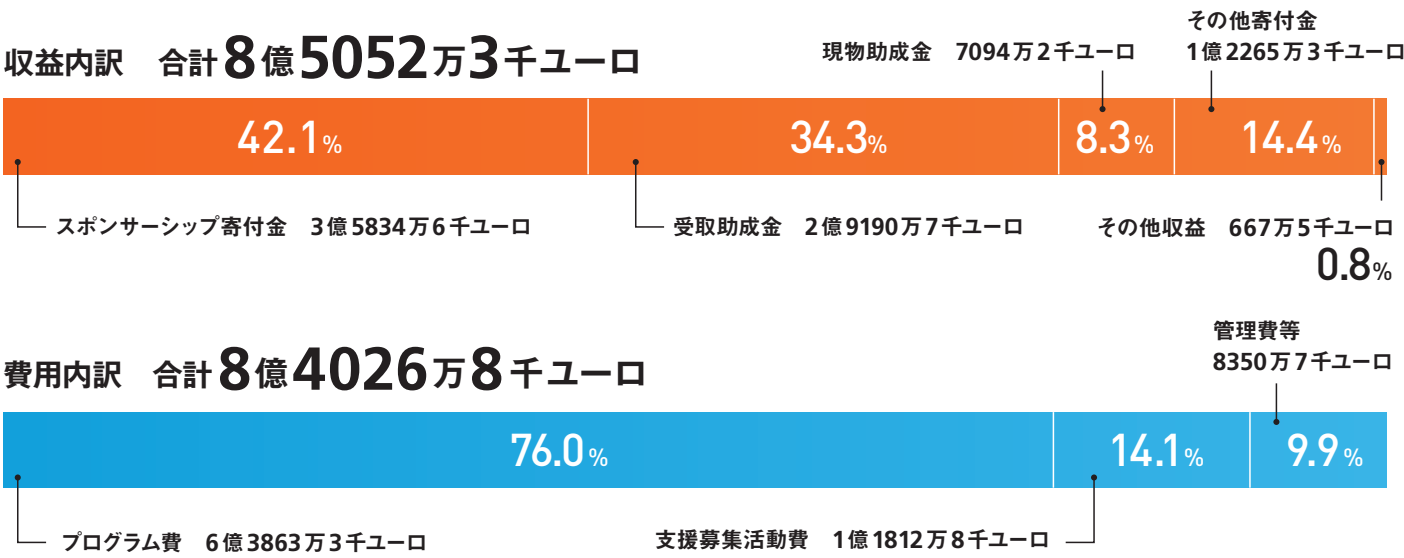
日本のプランの決算概要

2016年7月1日から2017年6月30日まで ※詳細はP31をご覧ください

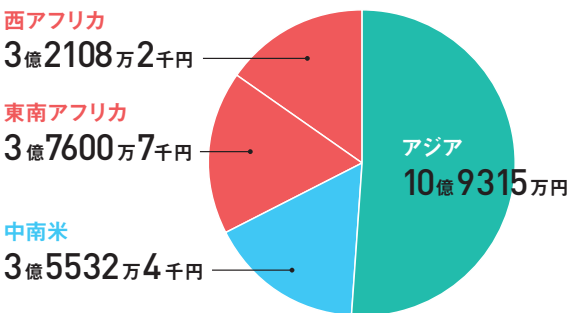


世界のプランの決算概要

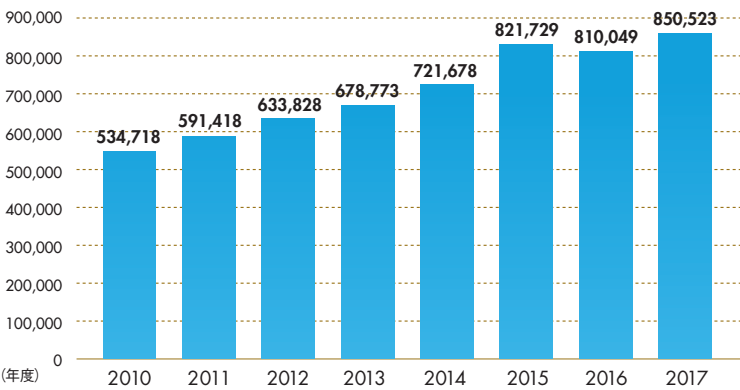
2016年7月1日から2017年6月30日まで ※詳細はP34をご覧ください ※1ユーロは約124円です(2017年6月現在)



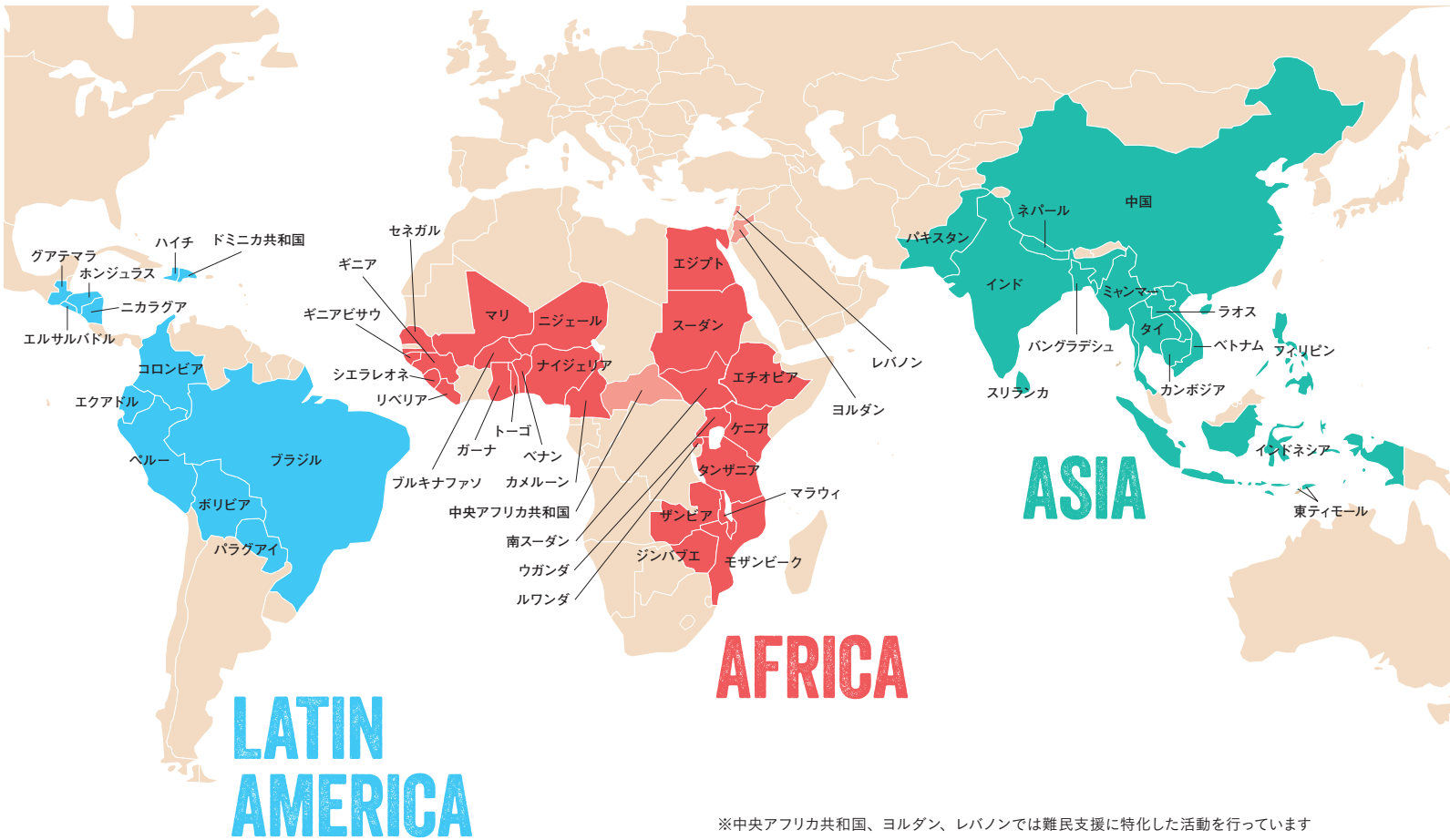
日本のプランの地域別支援額



世界のプランの収入額の推移 (単位: 1,000€)



プラン・インターナショナルの活動地域とデータ



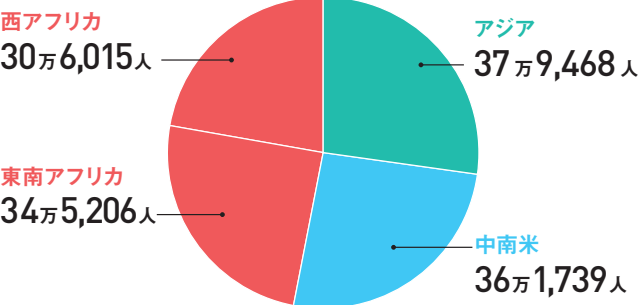
日本のプランのデータ (2017年6月30日現在)

職員数	58人
ボランティア数	651人(在宅604人、来局47人)
ユース・アドバイザー・パネル	10人
プラン・フレンズ(開発教育ボランティアグループ)	12人
G-School(学生ボランティアグループ)	20人
プラン・スポンサーシップ支援者数	3万5,120人
プラン・マンスリー・サポーター支援者数	1万3,764人
Girl's Project 継続支援者数	9,303人
プラン一般プロジェクトに寄せられた支援件数 (Girl's Project 含む)	7,911件
緊急支援に寄せられた支援件数	1,725件
特別プロジェクト実施件数	21件
補助金による実施プロジェクト件数	19件

世界のプランのデータ (2017年6月30日現在)

支援国数	21カ国
活動国数	51カ国
プラン・スポンサーシップ支援者数	108万3,207人
プラン・スポンサーシップチャイルド数	139万2,428人
年間に行ったプロジェクト数	1,788プロジェクト

チャイルドの住む地域





EDUCATION

教育

女の子をはじめとする困難な状況にある子どもたちが、安心して学べる環境づくりを継続

武装組織ボコ・ハラムの襲撃を乗り越えて

小学校教師のマーゾウさん（ニジェール）

2015年、ニジェール南東部に位置するディファ州はボコ・ハラムの襲撃を受け、24万人以上が家を追われました。学校は襲撃対象になってしまい、多くの学校が子どもの安全を守るために閉鎖を余儀なくされました。混乱のなかで、教育はあと回しになりました。プランは事態が落ち着くとすぐに、私が教えている小学校で新しく2教室や男女別の清潔なトイレを建設しました。学用品、教科書も支給し、子どもが教育を続けられるように支援してくれました。

795万9,579人

を支援

関連する
主なSDGsの
目標※



2017年度に注力した活動抜粋

- 自然災害や紛争の影響下にある子どもたちの教育支援
- 学校での暴力や差別といじめの撲滅
- 中途退学した子どもや若者への非公式教育と学校への復帰支援
- 障がいのある子どもの教育へのアクセス促進
- 子どもの意見を反映した学校運営と施設の改善



HEALTH

保健

栄養改善や育児支援など乳幼児保育に重点を置きながら、保健・医療施設の整備も

助産師として、村の女性たちの出産を支える

助産師のキオフェットさん（ラオス）

私が住むボケオ県は首都から遠く保健サービスが不足しています。多くの女性は18歳未満で子どもを産んでいますが、生まれた子どもは1,000人中110人が5歳の誕生日を迎える前に亡くなってしまいます。ボケオ県は少数民族が多く暮らすため、他の地域から助産師が来ても言葉がわからなかったり、習慣の違いから問題が起きたりすることもあります。私たちのように地元の女性たちが助産師となることで、安心して健診を受け、出産できるように手伝いたいです。

1,254万813人

を支援

関連する
主なSDGsの
目標



2017年度に注力した活動抜粋

- 若年層の女性の安全な妊娠と出産支援
- 男性と女性の双方にむけた育児支援と理解促進
- 下痢や栄養失調などの小児疾患に対する総合的な取り組み
- マラリアやコレラなどの感染症予防対策
- 保健・医療施設の整備



CHILD PROTECTION

子どもの保護

子どもの虐待や人身売買、児童労働をなくすために、行政と専門家との連携を強化

児童労働から救出された少年が
今は支援する側に

元児童労働従事者プラブハットさん(12歳・インド)

僕は毎日ごみを拾い、売り歩くことで生計を立てていました。父親はアルコール依存症で職につけず、母親は病気でした。働くために学校に行けず、1日1回の食事しか食べられませんでした。プランに保護されてから、施設で補習授業を受け、公立の学校への編入を目指しています。母親は生活を立て直すための生計向上の支援を受け、僕は働く必要がなくなりました。今はプランの職員と一緒に同じ境遇の子どもたちを救出する活動に参加しています。

657万7,558人

を支援

関連する
主なSDGsの
目標



2017年度に注力した活動抜粋

- 保護された子どもの教育や医療、心のケア支援
- 行政との連携を通じた家庭や社会への復帰支援
- 子どもの安全を見守る地域ボランティアの育成と通報システムの確立
- 弁護士と警察との協力を強化
- 出生登録キャンペーンの実施



WATER AND SANITATION

水と衛生

学校や地域を拠点に、安全な水の供給と衛生知識を広げる

ひとつの井戸が地域を潤す

小学校長のムトゥアさん(ケニア)

学校の水源はワニが生息する危険な沼でした。水汲みのときに子どもがワニに襲われて亡くなった事件が発生し、ショックを受け、プランに相談しました。完成した安全な井戸は飲み水や手洗いだけではなく、学校の果樹園の栽培用にも使われています。子どもたちが果樹園で実った新鮮な果物を食べることで、以前よりも健康になったと感じています。また、果樹園では住民対象の環境に配慮した農業技術のトレーニングを行いました。



早すぎる妊娠・出産を
防ぐ知識を広める

中学生のノエリアさん(14歳・エルサルバドル)

私は自分の学校や地域の同世代の人たちに十代の妊娠・出産の問題と弊害について話をしています。望まない妊娠を予防することと、早すぎる妊娠をした女性に対する周囲の差別と偏見をなくすことが目的です。正しい知識をもたないことが問題だと考えて、この活動に参加しました。最初私の母は、家の手伝いが減るからと言って賛成してくれませんでした。私の活躍を知って、今では理解してくれています。

636万4,197人

を支援

関連する
主なSDGsの
目標



2017年度に注力した活動抜粋

- 学校と地域でニーズに合わせた給水設備を設置
- 男女別トイレの設置によるプライバシー保護と月経時の衛生管理
- 自主的な家庭用トイレ建設と正しい衛生行動の定着促進

SEXUAL AND REPRODUCTIVE HEALTH

性と生殖に関する健康と権利

10代の若者が正しい知識を学び、啓発活動をリードする

211万8,307人

を支援

関連する
主なSDGsの
目標



2017年度に注力した活動抜粋

- HIVとエイズなどの性感染症に関する意識啓発活動
- 早すぎる妊娠予防にむけた性教育の実施
- 女性性器切除などの、心身を傷つける慣習をなくす法整備への働きかけ



ECONOMIC SECURITY

家計の安定

地域の状況に合った手段で、若者の経済力向上をあと押し

職業訓練で技術を身につけ 未来をひらく

プロジェクト参加者のマークさん(26歳・フィリピン)

僕は生まれつき口唇口蓋裂で、学校でいじめられたのがきっかけで家にこもるようになりました。フィリピンでは障がいのある人は、学校での支援体制が不足したり、地域の人や子どもたちの理解が足りず、いじめにあうなどの理由から、中途退学する人が多いです。何の資格も技術もなかったので仕事を見つけることができませんでした。そんなときに、妹と一緒にプランの職業訓練を受けることができました。

178万4,378人

を支援

関連する
主なSDGsの
目標



2017年度に注力した活動抜粋

- 村落貯蓄貸付グループの結成と運営支援
- 職業訓練や個人での起業支援
- 学校でのキャリア・金融教育の導入やライフスキル教育の実施



PARTICIPATION AS A CITIZEN

子どもの参加

女の子のリーダーシップと学校に通っていない子どもの参加を強化

子どもの権利を訴える 「10万人」集会に参加

小学生のビシーさん(バングラデシュ)

私は2017年1月1日に、256校の小学校から10万人の子どもたちが集まり、子どもの権利を訴える大きな集会に参加しました。この集会は、プランと行政と市民団体が企画しました。早すぎる結婚と児童労働をなくすことがテーマでした。私は、この集会のあと、両親に「お医者さんになる夢があるので、絶対に早すぎる結婚はしたくない」と、勇気を出して話をしました。

70万2,568人

を支援

関連する
主なSDGsの
目標



2017年度に注力した活動抜粋

- 女の子のリーダー育成トレーニング
- 村や国レベルでの子どもによる政策提言
- 子どもクラブや若者グループの結成と活動支援



EMERGENCIES

緊急支援

近年増加する自然災害による被害に加え、紛争の発生により、89回の緊急支援を実施

栄養補助食品で 子どもの命を救う

双子の母親のアケットさん(南スーダン)

私の3歳の双子の娘たちは、ずっと下痢、腹痛、熱にうなされて衰弱していました。内戦と食料危機が続き食べ物也没有ませんでした。プランが体によい食べ物を配ると聞いて、家族で保健所まで何キロも歩いてきました。娘たちは保健所でひどい栄養不良と診断され、病院で治療を受けることができました。私も妊娠中で栄養不良と診断され、栄養補助食品をもらいました。もし、プランがいなければ娘たちは生き延びることができなかったでしょう。

222万206人

を支援

関連する
主なSDGsの
目標



2017年度に注力した活動抜粋

- 南スーダン難民支援と東アフリカ食糧危機
- シリア難民支援
- 中央アフリカ共和国難民支援
- ハイチのハリケーン被害支援
- スリランカの干ばつ・洪水支援

India

レジュマさん(12歳)

村の子ども保護委員会のメンバーとして、学校に行くことや、病気から自分を守るために、手洗いの習慣を身につけることを周囲の子どもたちに伝えています。少しずつみんなが理解するようになりました。プランのおかげでこの活動ができるので、感謝しています

活動地域の子どもたちから

MESSAGE

カンチャさん(14歳)

2015年の大地震で家を失い、プランが建てた仮設住宅で暮らしていましたが、今は家も再建できました。お父さんの仕事の手伝いをしていますが、勉強もがんばるようにいつも励ましてくれます。医者かエンジニアになりたいです

Nepal

カンチャンさん(16歳)

子どもクラブのメンバーとして人身売買の撲滅や早すぎる結婚を防止する活動をしています。将来は警察官になって、貧しい人や困っている人を助けたい。そのために勉強を続けたいです

ノンゴグコさん(15歳)

同世代の子どもたちから、子どもの権利の大切さ、虐待を受けたら誰に相談するべきかを学びました。スポンサーとの手紙のやり取りを通じて、お互いの近況を知ることができます。いつも感謝の気持ちでいっぱいです

エスリーさん(14歳)

学校に寄宿舎が建ちました。教科書や学用品も支給され、学校に通えるようになったことが一番うれしかった。成績もよくなりました。家はマラリア予防の散布スプレーをもらったので、不安が減りました

Togo

マキリウェさん(16歳)

子どもクラブのメンバーとして、村の衛生改善のために活動しています。一番うれしかったのは、新しい保健所ができたことです。スポンサーから手紙をもらうのがとてもうれしいです。これからも応援してください

フッセーナさん(12歳)

プランから通学かばんと教科書をもらいました。これまで近くに保健所がなかったので、病気の時は10キロ以上も歩きました。プランが近くに新しい保健所を建てたので、村のみんながとても楽になりました。とても感謝しています

ホーさん(12歳)

村に新しい幼稚園ができて、たくさんの絵本も読めるようになったので、みんなが喜んでます。家族はヤギをもらいました。スポンサーから、いつも手紙やかわいいシールが届いてうれしいです

Vietnam

カムさん(16歳)

女の子クラブのメンバーとして早すぎる結婚防止の活動などに参加しています。勉強机と卓上ランプをもらい、家には新しい清潔なトイレができました。学校には新しい給水設備ができたので、学校でいつでもきれいな水を飲めるようになりました

エミリーさん(14歳)

子どもアドバイザーとして、プランの活動について助言しています。以前は自分に自信がありませんでしたが、プランが勇気づけてくれるので、意見が言えるようになりました。応援してくれる人たちに失望させないように、夢にむかって努力したいです

Peru

Zimbabwe

PLAN SPONSORSHIP

プラン・スポンサーシップ



スポンサー数(日本)

3万5,120人 (世界: 108万3,207人)

チャイルド数(日本のスポンサーをもつ)

3万8,103人 (世界: 139万2,428人)

プラン・スポンサーシップ支援

子どもや住民が主体となり、教育・保健・水と衛生など、8つの分野における改善を重視し、多面的に地域開発に取り組む活動。子どもの権利と保護を第一に、人々の能力開発と行動変容を促し、最終的にはプランが地域から去ったあとも、地域の力で継続的に自立を可能にすることを目指しました。

スポンサーとチャイルドのさまざまな交流

2017年度もスポンサーとチャイルドとの間に多くの交流がありました。とくに、スポンサーにはウェブサイト上の交流ツールを利用いただく機会が増えました。「グリーティングカード付きカレンダー」キャンペーン、また、「1年の歩み」に返信用カードをつけたことで、スポンサーからのお手紙が増えました。「バースデー・カード」をはじめとするオンライン手紙フォームなど、ウェブサイトの利便性を生かした交流も盛んでした。



スポンサーからチャイルドへ送られた手紙

3万1,544通

グアテマラ 日本のスポンサーと交流

フレディさん(10歳)(写真中央)

友だちと一緒にスポンサーからのお手紙を受け取るフレディさん。「スポンサーの方の近況について知ることができて、とてもうれしいです」



チャイルドから届いた「1年の歩み」や手紙

7万3,061通

2012年からスリランカとセネガルのチャイルドのスポンサー

気賀さん

「ある時、試験の勉強が大変だけど頑張っていますという内容の手紙が届きました。次の手紙は試験がうまくいかず、落ち込んでいるというお兄さんの代筆でした。私もなんとかして励ましたいという思いで返事を書きました。直接チャイルドに応援のメッセージを届けられるのがとてもうれしいです」



コミュニティ訪問数

28件、53人 (内訳: アジア19件、アフリカ5件、中南米4件)

2016年9月にベトナムのバクザン活動地域のチャイルドを訪問

馬詰さん(写真左)

「スポンサーになって7年近く。プランの活動により、多くの人々の生活が改善している様子がよくわかり、寄付が役に立っている実感が湧きました。一生の思い出になりました」

登録終了を迎えたチャイルドたち

ウガンダのトロロウエスト活動地域

チャイルドになって、私の夢に一步近づきました

モーリーンさん（19歳）

- 登録年：2005年
- 登録終了理由：18歳の年齢基準



登録時

卒業して大学生になった現在



最も印象に残った活動

「学校のトイレが新しくなり、衛生的になったことです。学校のトイレを使うのが嫌だった女の子も学校に来るようになりました。また、村落貯蓄貸付グループに参加して、商売を始める方法を学びました。私には父親がいまいませんでしたが、私の母も、プランの活動を通じて商売を成功させ、私やきょうだいの教育費を稼いでくれました」

これからの夢

「学んだスキルを生かし、ビジネスを始めること」

メッセージ

「仕事を通じて、子どもたちの教育支援をしたいです」

2017年度のトロロウエスト活動地域の活動事例

- 衛生促進キャンペーン参加とトイレ設置(2,103世帯)
- 育児講習会に参加(父親220人と母親400人)
- 村落貯蓄貸付グループ参加(女の子1,000人)



村落貯蓄貸付グループの女の子たち

ニカラグアのチナンデガ活動地域

ジェンダー平等を学んだことで自分が楽になりました

エイネルさん（17歳）

- 登録年：2003年
- 登録終了理由：地域の卒業



登録時

登録終了時



最も印象に残った活動

「ほかの男の子や女の子、大人たちにジェンダー平等を広める活動です。家庭内暴力を防ぐために、同世代の男の子を対象に、今まで当たり前だと思われてきた『男らしさ』の弊害について説明しました。男だからといって感情を押し殺す必要がないことを知り、自分も楽になりました」

これからの夢

「農業技術者になって、環境にやさしい農業をすること」

メッセージ

「辛い経験をしているとき、スポンサーが手紙で励ましてくれました。自分とコミュニティを助けてくれたスポンサーに、心から感謝しています」

2017年度のチナンデガ活動地域の活動事例

- ジェンダー平等トレーニング(思春期の男女823人)
- 子ども対象の感染症予防キャンペーン(2,638人)
- 子どもの栄養測定実施(1,190人)



ジェンダー平等のトレーニングを受ける男の子たち

インドネシアのシッカ活動地域

大人に自分の意見が言えるようになりました

クラウディアさん（14歳）

- 登録年：2010年
- 登録終了理由：地域の卒業



登録時

登録終了時



最も印象に残った活動

「子どもクラブのメンバーとして、多くの人に子どもの権利を知ってもらった活動をしました。人身売買など子どもに関わる大切な問題には、私たち子どもクラブのメンバーが積極的に発言しました。以前よりも大人たちは子どもの意見を聞いてくれます」

これからの夢

「英語の勉強が好きなので、英語の先生になること」

メッセージ

「スポンサーは特別な存在。私とこの地域の子どもたちを助けてくれました。私たちに希望とチャンスを与えてくれるプラン・スポンサーシップ支援は素晴らしいです」

2017年度のシッカ活動地域の活動事例

- 教室の修繕(571人)
- 育児講習会に参加(父親141人、母親217人)
- 子ども保護委員会メンバーのトレーニング(44人)



新しい教室で学ぶ子どもたち

プランが新たに活動を開始した地域

ウメールコット活動地域 パキスタン

登録終了を迎えるチャイルドがいる一方で、新たに登録され、スポンサーとの交流を心待ちにしているチャイルドもいます。パキスタン南部に位置するウメールコット活動地域では、多くの子どもたちがスポンサーとの出会いを待っています。

首都イスラマバードから遠く離れたウメールコット活動地域は、住民の46%以上が貧困ライン以下の生活を送っています。何世紀にもわたり、シンド族、パローチ族、サマット族の人々が暮らしていますが、ほとんどの人には土地の所有権がありません。この地域では児童労働の問題が深刻で、10歳を過ぎた子どもたちが、さまざまな分野で働かされています。

プランはこの地域での問題を解決するために、息の長い地域開発に取り組んでいきます。それを実現するのは、プラン・スポンサーシップによる支援です。子どもたちの成長と地域の変化をぜひ支えてください。



(写真上) 教室が足りないため、屋外で学ぶ子どもたち
(写真左) 児童労働を行う子どもたちは学校にも通えず、病気に苦しむこともあります



2017年度の実績

皆さまで募った寄付と、外務省より拠出された資金

2億3,145万6,681円

前年度のプロジェクトへの追加事業も加え、5カ国で5プロジェクトを実施しました。

*会計の詳細については P32-33 をご覧ください

差別をなくすジェンダー教育

ルワンダ

- 活動と成果**
- ① 「ボーイズ・フォー・チェンジ」クラブの設立と活動 (181人)、「女子部屋」の設置 (3校)
 - ② 「ガールズ・キット」(生理用品やノート、ペンなど学用品のセット) を支給 (342人)

女の子が安心して学べる学校をみんなで実現

ルワンダでは「暴力は男らしさである」との伝統的な考えが根強いと、女性への暴力が許容されやすく、多くの女の子が男の子や男性から暴力の被害にあっています。子どもたちが安心して通えるはずの学校でもそれは同様です。生理について男の子から受けるいじめが、女の子を学校から遠ざける一因にもなっています。

チェンジ」クラブでは、「女性の仕事」とされる掃除を男女で行ったり、性と生殖に関する健康について学ぶことで、典型的な男らしさや性別に基づいた思い込み、差別感情を見直すことに取り組みました。今後も、メンバーたちはクラブの活動を続け、学んだことを同級生や家族などの周囲の人々に伝えていきます。

参加者の声

中学2年生

ウィネザさん (14歳)

「生理が始まるといつも学校を休みました。貧しくて生理用品を買えなかったのです。スカートについた血を笑われるのも嫌でした。今は『女子部屋』に行くと生理用品が置いてあるので、学校を休む必要がなくなりました」



女の子の仕事とされている掃除と一緒にする「ボーイズ・フォー・チェンジ」クラブのメンバー

男の子と女の子が協力することが大切

生理の時に着替えたり、休憩できる「女子部屋」を設置しました。さらに、経済的理由で生理用品や学用品が買えない女の子たちには、「ガールズ・キット」を支給し、より多くの女の子が学校に通学できるようにしました。男の子の意識を変えるために結成した「ボーイズ・フォー・

若年層の女性の経済的自立

トーゴ

活動と成果

- ① 村落貯蓄貸付グループの立ち上げと運営 (74グループ、1,593人)
- ② 起業支援トレーニングと商売に必要な技術指導 (43人) とライフスキル教育 (132人) など

女性同士で助け合いながら、経済力を身につける



集まったお金を数えるメンバーたち

中央州アデレ地域は都市部から遠く、貧しい地域で、職に就けない若者が多く暮らしています。男性に比べて、女性、とりわけ未婚のまま若くして母親になった女の子たちには生計の手段がなく、経済的に追い詰められています。商売を始めようとしても、資金の融資を頼める正規の金融機関がないことが、女の子の自立を阻む障壁となっています。

女性たちが生み出す変化

すでに村落貯蓄貸付グループの活動経験がある年上の女性たちが、若い女性の参加者たちにわかりやすく説明することから始めました。運営の方法やしくみ、運営委員の選出、ルールづくりなどを学び、これまでに74グループを立ち上げました。貸付や返済などを学んだあとで、新たに起業する女性たちも

います。次年度はさらに多くのグループを立ち上げ、活動を展開する予定です。また女性の立場が弱かった村で、女性が村の集会に呼ばれたり、男性から商売のアドバイスを求められるなどの新しい変化が生まれています。

参加者の声

グループのメンバー

ケメドウさん (22歳)

「小学校を中途退学して出稼ぎに行きました。仕送りのために貯蓄はできず、村に帰っても生活は苦しいままでした。このプロジェクトのおかげで、縫製の商売が大きくなりました。農業で収入を増やす方法も教わり、畑で雑穀を育てています」

女性への暴力撲滅・保護

ネパール

活動と成果

- ① ジェンダーに基づく暴力予防のための知識普及 (4,259人)、女性人権擁護スタッフ対象の能力強化トレーニング (274人)
- ② セーフ・ハウス (行政が運営する被害者用のシェルター) の建設

女性への性暴力と家庭内暴力をなくすために

バルディア郡は都市部から遠く、経済的に厳しい地域です。男性優位の考えが根強く、女性への家庭内暴力や性暴力が深刻です。加害者の男性が罰せられず、被害者である女性が差別されることもあります。彼女たちは行き場を失い、人身売買の被害にあったり、自殺に追い込まれるケースもあります。

病院に相談する女性が増えました。暴力を撲滅するには長い時間を要しますが、人々の考え方や行動が少しずつ変化しています。啓発活動に加えて、被害を受けた女性や子どもたちが安心して過ごせるセーフ・ハウスの建設を2018年の竣工を目指してすすめています。

女性同士の連携で、声をあげ始めた被害者たち

地域のボランティア、「女性人権擁護スタッフ」が中心となり、村々や学校に出むいて、女性、女の子、若者といったグループのメンバーたちに、暴力はいかなる理由でも許されないことであると説いています。そして、暴力が起きたら速やかに警察や病院に行き、相談するように促しました。この結果、警察や



女性たちと話す澤柳職員 (左から2番目)

現地リポート

プログラム部

澤柳孝浩 職員

最も印象的だったのは、母親の出稼ぎ中に父親から性暴力を受け保護されたタルー族の幼い3人の姉妹です。土地を所有しないタルー族の多くは、都市部に出稼ぎに行きます。貧しさも暴力を助長する原因なのです。

プラン一般プロジェクト／緊急支援

教育と保健分野を中心に、特にニーズの高いプロジェクトを実施しました。

プラン一般プロジェクト／2017年度の実績
皆さまで募った寄付と、外務省、米州開発銀行などより拠出された資金

**1億5,557万
9,077円**
前年度のプロジェクトへの追加事業も加え、7カ国で9プロジェクトを実施しました。

緊急支援／2017年度の実績
皆さまで募った寄付と、アジア開発銀行から拠出された資金

**1億229万
7,164円**
前年度のプロジェクトへの追加事業も加え、6カ国で6プロジェクトを実施しました。

＊会計の詳細については P32-33 をご覧ください

子どもの栄養状態改善

活動と成果 ① 妊産婦や授乳中の母親への毎月の育児指導 (1万263人)
② 乳幼児保育施設での給食や乳幼児への微量栄養素の支給 (1万9,653人) など

地域と家族で 子どもの 健康を守る



育児指導・相談会に参加した母親たちと橘職員 (右から2人目)

インドでは5歳未満児の40％以上が栄養不良と言われ、ラジャスタン州でも大きな課題になっています。その要因は多岐にわたるため、多方面からの取り組みが必要です。このプロジェクトでは、微量栄養素などの支給や乳幼児保育に関わる人材の能力強化などをはじめとする、さまざまな活動に取り組み、家庭や地域内での栄養不良への対応・予防体制づくりを目指しました。

子どもの栄養状態を正しく把握 することで、適切な処置が可能に

妊産婦と子どものいる家族には、栄養の大切さ、適切な食事、育児法などの研修を行い、さらに栄養指導員といった子どもの健康状態を見守る最前線の人々の能力強化をはかりました。この結果、実態がより鮮明に把握できるよ

うになりました。必要に応じて、栄養不良の子どもは医療機関に入院して治療を受け、退院後も看護師と栄養指導員が連携して経過観察する体制が整いました。今後の父親の研修では、父親の積極的な育児参加も促す予定です。

参加者の声

現地リポート

橘 祐子

.....
ピカネール県で妊産婦などへの育児指導や相談会を視察し、活動の成果を実感しました。村の栄養指導員とプロジェクトを担当する職員に加え、乳幼児保育施設職員も役割を担い、三者で協力しながらの指導・相談会運営は成果のひとつです。

小学校建設

ガーナ

活動と成果 ① 新校舎の建設 (2校各6教室)、教室備品の支給、井戸建設、トイレの設置
② 学用品 (通学用バックとノート10冊、鉛筆や消しゴム、定規など) の支給 (488人) など

新しい校舎が 多くの子どもたちに 通学のチャンスを広げる



学用品をもらった子どもたち

北部タタレサングリ県のサンバンとニョビドのふたつのコミュニティの小学校では、子どもたちは雨や風をしのげない教室で学び続けなければならませんでした。また、教室も不足していたため、入学を断られた子どもたちもいました。新校舎の建設を長年にわたり行政に訴えてきましたが、これまで実現しませんでした。

プランが叶えた住民の悲願

新校舎の建設は、住民の悲願でした。教育省や教師などの関係者に加え、住民と綿密に連携しながら、プロジェクトをすすめました。建設工事が遅れたときには、土砂の採取や運搬作業などに、地域住民が積極的に協力しました。予定通りに校舎は竣工。子どもたちは広く、清潔な新しい校舎で学べるようになりました。今後は小学校への子どもの入学数が増え

ることが期待できます。また、経済的に厳しく、学用品を買えない子どもたちには、学用品を支給しました。支給の際には家族に同席してもらい、学用品の支給目的と子どもの教育の重要性について説明し、理解を深めてもらいました。

参加者の声

ニョビド小学校

ジュリアーナさん

.....
「以前の教室はちゃんとした屋根や壁がなかったので、雨が降ると授業を中断して家に帰らなければならませんでした。屋外にいるのと同じなので、あまり授業に集中できませんでした。それが今ではまったく変わり、静かで快適な教室になりました」

東アフリカ食料危機緊急支援 ※

南スーダン、エチオピア、ケニア

活動と成果 ① 南スーダン：食料支給 (5万2,800人)、エチオピア：栄養不良の子どもへの外来治療を含む栄養改善 (1万2,985人)、ケニア：学校給食支援を含む食料支援 (1万2,177人) など

迫り来る飢餓を 食い止めるため、 3カ国で支援



プランから受け取った野菜の種子を手にする女性

2017年の初めから、東アフリカで、干ばつによる食料危機が深刻化。干ばつは、飲料水が足りなくなるだけでなく、家畜や農作物の育成にも影響を及ぼし、農業に依存する暮らしに打撃を与えました。さらに食料価格の高騰や伝染病の発生が追い打ちをかけ、状況をより深刻にしました。特に紛争が続く南スーダンでは支援を必要とする人々が600万人を超えています。

2018年の収穫を目指した 支援を強化

プランは国際機関などと連携し、南スーダン、エチオピア、ケニアの3カ国で安全な水の確保、栄養改善、生計向上、農業支援などに取り組みました。食料危機が始まった直後は、食料支給に重点を置いていましたが、次第に、種子

や農具、漁業用品の支給など、来年の収穫を目指した農業支援も強化をしました。ケニアでは約1万6,000人、エチオピアでは約14万人、南スーダンでは約24万人に支援を届けることができました。引き続き、南スーダンを中心に緊急支援を行っていきます。

参加者の声

紛争が原因で両親が行方不明になった

イヒサさん (12歳・南スーダン)

.....
「ココナッツと野草だけを食べていました。プランの支援で、本当に久しぶりに、油と豆とソルガム (モロコシ) と塩が手に入りました。これで1カ月は食事に困りません。両親と一緒に収穫できないのが残念です」

※このプロジェクトは複数のプラン・インターナショナル支援国と共同で実施しました



2017 年度の実績

皆さまから募った寄付と、世界食糧計画、国連難民高等弁務官事務所、国際移住機関から拠出された資金

5億8,215万
2,822円

前年度のプロジェクトへの追加事業も加え、11カ国で12プロジェクトを実施しました。

＊会計の詳細については P32-33 をご覧ください

シリア難民の子どもの教育支援

エジプト、ヨルダン

活動と成果

- ① エジプト：奨学金や学用品の支給（小中学生700人）、小中学校8校における衛生設備の改善と衛生知識の啓発キャンペーンの実施（生徒1万1,500人）
- ② ヨルダン：子どもたちや保護者のニーズ調査（120人が参加）

紛争から逃れた
子どもたちに
教育の機会を

2011年から始まったシリア紛争が原因で、人道支援を必要としている人は世界中に約1,350万人、その約半数は子どもたちです。人々は住んでいた場所を追われ、見知らぬ土地で難民として暮らしています。大切な成長期に必要な教育やケアを受ける機会を失い、学校に通うことができない子どもたちが大勢います。

ホストコミュニティの学校と
難民キャンプを支援

エジプトでは難民の子どもたちが学校に通えるように、奨学金の支給に加え、難民を受け入れているホストコミュニティにある小学校のトイレや手洗い場の改善、全生徒を対象とした衛生知識の普及活動などを行いました。また、シリア難民の子どもを対象に補習授業を開き、算数、英語、アラビア語など学習支援に取り組

みました。ヨルダンの難民キャンプでの活動も本格的な実施に向けて準備をすすめました。就学前教育センターの設置と運営、保護者対象の育児トレーニングにむけて、キャンプで暮らす子どもたちや保護者に聞き取り調査を行いました。

現地レポート

シリアから逃れてきた

アヤさん

「銃撃戦が毎日のように続き、学校どころではありませんでした。エジプトでも学校に通うことが認められずに数年が経ちました。同年代の子たちが学校に通うのを見ると悲しかったです。ようやく学校に通えて、うれし



エジプト人とシリア人が一緒に学ぶ教室

若年層を中心とした感染予防と差別のない地域づくり

ジンバブエ

活動と成果

- ① 学校を拠点とした「性と生殖に関する健康と権利」と「HIVとエイズ」について意識啓発活動（4,500人）
- ② 診療所への「ユース・フレンドリー・コーナー」の設置（2カ所）、イベントとメディアによる知識普及（約100万人）

HIV対策から
取り残された
若者



同世代の仲間に情報を効果的に伝える手法を学ぶ「ピア・エデュケーター」のメンバー

ジンバブエは、HIVとともに生きる人々が約160万人、若者（15～24歳）のHIV感染率5.9%（女性は7%）など、世界でもHIVとエイズの問題が深刻な国のひとつです。避妊の知識や手段が普及しないままの性交渉の拡大が、さらなる感染と早すぎる妊娠につながっています。このため、思春期の若者にむけた正しい性教育の実施と知識の普及を行いました。

同世代の若者同士で性と
生殖に関する悩みを解決する

HIVを含む性感染症の予防に必要な情報にアクセスしにくい15～24歳の若者を対象に、HIVとエイズに関する知識や自分の健康を守る方法を学ぶ機会を提供しました。若者のなかから同世代の仲間に伝える役割を担う「ピア・エデュケーター」を養成し、彼らが性に関する

悩みを抱える仲間の相談役となり、問題解決のために助言しました。診療所内に設置された「ユース・フレンドリー・コーナー」では、「ピア・エデュケーター」が常駐し、カウンセリングを提供。専門的なサポートが必要と判断した場合には、診療所の医師を紹介できる体制を整えました。

参加者の声

ピア・エデュケーターの

フォーチュンさん（15歳）

「性交渉のあとに、ジャンプすれば妊娠しないという迷信を信じている人たちも多かったです。参加型ワークショップやロールプレイ、歌や踊りなど、さまざまな手段で、同世代の仲間に正しい情報を伝えました」

子どもや女性への虐待防止

パキスタン

活動と成果

- ① 虐待に関する電話、SNS、訪問による相談件数（9,754件）
- ② 訴訟の支援件数（18件）と弁護士や医療機関などの関連団体とのネットワークづくり（258団体）

子どもや
女性のための
虐待相談所
の運営を支援



無料相談の電話番号が書かれた「移動式相談所」の車両

パキстанは子どもに対する暴力が、「しつけ」という形で見逃されやすい傾向にあります。その一方で、子どもの家事使用人など、虐待の温床となりやすい場所が多いのが現状です。しかし問題は表面化しにくく、虐待の実態は正確にはわかっていません。2015年にある村で、約300人（主に男の子）が村の男性たちの長年にわたる性的虐待の被害者になっていた事件が発覚し、国中に衝撃を与えました。それ以来、子どもの虐待への取り組みの動きが強まっていました。

週7日24時間いつでも
助けを求められる

以前より多くの子どもや女性が虐待被害を相談できるようになりました。4都市（カラチ、ラホール、ペシャワール、クエッタ）にある既存の虐待相談所の受付

時間を拡大。遠隔地には車両を用いた「移動式相談所」を走らせました。虐待相談所を知らない子どもたちも多いため、普及のための集会も開きました。さらに無料の相談窓口を年中無休化し、24時間体制にしました。弁護士や医療機関とのネットワークを強化し、必要な支援を提供しました。

参加者の声

無料相談を利用した

ラビニさん（仮名（16歳/女の子）

「男性数人による性暴力の被害にあいました。母親が私の代わりに相談所に行き、その後、私は相談所で紹介された医師のセラピーを受けました。もうすぐ裁判も起こすように準備をしています」

活動を支えてくださる方々や団体

協働していただくことで活動が広がり、小さな変化から大きな変革を起こす力を生み出すことができます。
2017年度、プランの活動を多方面から支えてくださった方々、団体の取り組みを紹介します。

支援者たちとの協働

支援者グループが 全国30カ所で

70

のさまざまな
活動を実施



プラン
名古屋の会代表
安藤良一さん

「25年前から活動しているプラン名古屋の会は、愛知県内に10前後あった団体のひとつでした。今はプラン尾張の会とふたつのみ。多くの方にプランを知っていただき、長く支援をしてもらえるよう考え、2017年も支援者の会を3回開催し活動しました。ともに活動できる全国の支援者の会がもっと増えることを期待しています」

支援者の皆さまがお住まいの地域にボランティアで立ち上げた支援者の会をはじめ、開発教育ボランティアのプラン・フレンズ、ジェンダー問題を学び途上国の女の子たちが直面する課題を周りに伝えるプラン・アカデミーなど、多くの方々がプランの活動に協力くださっています。日本各地で活動する支援者の会は、チャイルドへのお手紙書きイベントをはじめ、事務局の職員を交えての活動報告会など、支援者同士の交流を促進してくださって

います。また、地域のイベントへの参加などを通じて、地域の人々に途上国やプランの活動について積極的に情報を発信してくださっています。



プラン・アカデミー生の企画による、アクセサリ作り講習会でファンドレイジング

開発関係機関と協働

12カ国

19

プロジェクトを
実施

外務省をはじめ、各国際機関も途上国開発をすすめる重要なパートナーです。アジア開発銀行、米州開発銀行、世界銀行、国連難民高等弁務官事務所などと協働し、学校建設、教育改善のほか、乳幼児や少数民族の子どもたちの栄養改善、水衛生施設の改善、若年層の就業支援などに取り組んでいます。



台風で被災後、支援を受けた親子（フィリピン）

教育機関との協働

60校

6,710

人に 授業を行いました



秋田県立大学
総合科学教育研究センター
鈴木祐丞 助教

「『途上国への寄付は義務か』という問いに向き合う倫理学の授業のなかで、プランの職員に講義を依頼しています。授業をきっかけに、実際に寄付をする学生や、国際NGOで働きたいと考えるようになる学生がたくさんいます。私自身プランの支援者ですが、『ハコモノ』ではなく『教育』を中核としているのが、プランのよさだと思います」



角田光代さんによる講評の様子

対象を高校生・大学生のユース層に据え、「認知」「共感」「参加」を得ることを目的として、開発教育を実施しています。今年も、修学旅行生などによる事務所訪問を受け入れ、全国各地の学校や教育関連団体への職員の講師派遣を積極的に行いました。第3回となった「夏休み読書感想文コンクール2016 私を動かす、この一冊。」では、全国25の都道府県の65校から、中学生と高校生1,935人が応募。審査員長に小説家の角田光代さんをお迎えし、最優秀賞、優秀賞、特別賞6人と学校賞が選ばれました。

ボランティア・グループとの協働

「東京ヤマソン2017」with インターナショナル・ボランティア・グループ

962

人が
エントリー



インターナショナル・
ボランティア・グループの役員
大石康司さん

「第9回東京ヤマソンは、あいにくの雨にもかかわらず800人以上の方が参加し、皆さんからスリランカの子どもたちに対する熱い思いを感じました。私は登録受付を担当しました。とてもハードな業務でしたが、子どもたちの未来をよりよくしようと頑張りました。来年も皆さんと一緒に活動できることを楽しみにしています」

日本に住む外国人を中心に、複数の企業を巻き込み活動するインターナショナル・ボランティア・グループが主催するファンドレイジングイベント「東京ヤマソン2017」。JR山手線29駅をチームを組み回るイベントが5月に開催されました。参加費、およびクラウドファンディングを通じて集められた資金をすべてプランに寄付してくださいました。これにより「スリランカにおけるコンピューター教室建設プロジェクト」を実施することができました。



大会参加者たち

個人支援者との協働

～プラン特別プロジェクト～

6カ国で

10

プロジェクトを
実施

23組の個人によるプラン特別プロジェクトへのご支援により、アジア6カ国で10件のプロジェクトを実施しました。就学前教育、小学校建設、女子教育の推進や災害で被災した学校の再建などの教育プロジェクトに加えて、給水設備など子どもたちの健康を守るプロジェクトも実施しました。春と秋には、複数人でひとつのプロジェクトを支援する「8人で支援する特別プロジェクト」を募集。合計16組の方々から申し込みをいただきました。



新しい給水設備で手を洗う女の子（ネパール）

日本国内の若者との連携

高校生と大学生

30

人がプランの
ユース・メンバーとして活動



ワークショップを実施するG-Schoolメンバー



G-Schoolメンバー、
大学4年生
生原のぞみさん

「G-Schoolはこの1年も、国際ガールズ・デーイベントや読書感想文コンクール表彰式、アースデイ東京2017での出展など、さまざまな形でプランの活動に参加しました。私たちはプランのユースとして、途上国で起きている問題やプランのプロジェクトを同世代に向けて発信する役割を果たすべく、日々活動しています。現在メンバーはほとんどが女性なので、今後はより多くの男性を巻き込んでアクションを起こしていきたいです」

学生グループG-Schoolは今年も中高生を対象とした授業やイベントへの参加、自主的な勉強会なども行い、活発に活動を続けています。
また、2014年6月に設立されたユース・アドバイザー・パネルは、今年度も若者の意識調査や役職員との対話に加え、プランの活動地域の視察、若者へのアプローチや情報発信の方法の提案など、精力的に活動しました。

活動を支えてくださる企業のCSR

2017年度、日本のプラン・インターナショナルは計942の企業・団体から支援をいただきました。途上国での地域開発活動は長期間にわたるため、継続的なご支援は活動を安定して継続するために必要不可欠です。多くの企業・団体が、CSR事業の一環、寄付つき商品の売り上げや社員・職員のボランティア活動など、さまざまな形で、複数年にわたり継続的に支援くださっています。そのような事例の一部をご紹介します。

＊ BIAAG: Because I am a Girl の略



各店舗のレジに設置されている募金箱

株式会社イトーヨーカ堂 全店の会計レジに募金箱を設置

株式会社イトーヨーカ堂は2016年3月より、国内のGMS(総合スーパー)として初めて、全国のイトーヨーカドー、ザ・プライスの会計レジに募金箱を通年設置し、年間を通じてお客様・従業員へ募金と呼びかける活動を展開しています。3カ月単位で、さまざまな社会的課題の解

決への一助になるテーマを決めて実施されており、プランはその募金活動の寄付提供先のひとつとして選定されています。募金で集められた寄付金全額で、BIAAGキャンペーンのひとつであるパキスタンの小学校建設プロジェクトにご支援くださいました。

第一三共株式会社 医療サービスへの アクセスを 改善するために

保健医療分野での社会貢献に積極的に取り組んでいる第一三共株式会社。対象地域の変化や活動の成果を定着させるために複数年にわたりご支援くださっています。2017年度は、タンザニアにおける「巡回医療サービスプロジェクト」と中国における「母子栄養改善プロジェクト」にご支援をいただきました。活動の進捗を把握するため、今年も現地を訪問くださいました。現地の医療サービス向上に貢献されています。



巡回医療サービスで活躍する車両 (タンザニア)

トヨタ紡織課長会 課長の皆さま全員によるご支援

2006年より、トヨタ紡織グループの「よき企業市民として社会との調和ある成長を目指す」という基本理

念のもと、課長全員で構成される課長会の皆さまがご支援くださっています。課長会役員の皆さま全員で支援プロジェクトを決定し、終了時には現地訪問をして実際に成果を確認されるなど、主体的に関わってくださいました。これまでインドネシア、フィリピン、タイ、ベトナムなど現地事業所がある国々を中心に、小学校建設など11の教育関連プロジェクトをご支援くださいました。



落成式に出席された課長会の皆さま

特定非営利活動法人 寄付型自動販売機普及協会 自動販売機で社会貢献

特定非営利活動法人 寄付型自動販売機普及協会は、寄付型自動販売機の普及や社会貢献に関する啓発活動に取り組んでいます。寄付型自動販売機を設置するオーナーが増えると、気軽に社会貢献ができる購入者が増えます。プランは2012年より、売り上げからプラン一般プロジェクトにご寄付をいただいています。現在、プランへの寄付型自動販売機は全国で19台設置されており、飲料缶・ボトルを購入した方々と世界の子どものための橋渡しになっています。



プランのオリジナル・ラッピングがされた寄付型自動販売機

第一園芸株式会社 カーネーションに思いを込めて支援

途上国の女の子が置かれている現状を知ったことをきっかけに、BIAAGキャンペーンをご支援。2017年4～5月の母の日まで、『カーネーション1鉢からできる支援“未来の母”を助けるプロジェクト』と題してカーネーションの鉢植えを首都圏の全17店舗およびオンラインショップで販売。その売上げの一部をBIAAGプロジェクトにご寄付くださいました。



プロジェクトの対象としてオンラインショップで販売されたカーネーション

今年度
ご寄付を
いただいた企業

朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
アスピア化粧品株式会社
イオン株式会社
いちよし証券株式会社
株式会社有沢製作所
株式会社宝建材
株式会社ボディワークホールディングス
株式会社ポーラ
株式会社1&Dホールディングス

シチズン時計株式会社
住友化学株式会社
住友生命保険相互会社
TOTO株式会社
トヨタ部品京都共販株式会社
日本バイリーン株式会社
藤田観光株式会社
丸中製菓株式会社
三井物産株式会社

森永製菓株式会社
Yahoo! ネット募金 (ヤフー株式会社)
有限会社HA2
有限会社ユークリッド・エージェンシー
有楽製菓株式会社
ワールドインテリジェンスパートナーズ
ジャパン株式会社

※50音順・敬称略
ほかにも多くの企業にご支援いただきました



日能研発行
『SDGs 2030 年までのゴール』

活動国の基本統計一覧 2017

		活動開始年	チャイルド数	日本のスポンサーを持つチャイルド数	平均余命(歳)	成人の総識字率(%)	小学校に入学した生徒が最終学年に残る率(%)	5歳未満児死亡率(1,000人あたり)	妊産婦死亡率(10万人あたり)	改善された水源を利用する人の比率(%)	出生登録されている5歳未満の子どもの割合(%)	18歳より前に結婚または事実婚状態にあった20〜24歳の女性の割合(%)	1人あたりのGNI(米ドル)	1日1.90米ドル未満で暮らす人の比率(%)
アジア	バングラデシュ	1994	32,181	1,800	72	60	66	38	176	87	37	52	1,080	44
	カンボジア	2002	25,485	1,106	69	74	47	29	161	76	73	19	1,020	6
	中国	1995	29,563	451	76	95	—	11	27	95	—	—	7,400	11
	インド	1979	57,500	1,802	68	69	—	48	174	94	72	47	1,570	21
	インドネシア	1969	40,000	928	69	93	82	27	126	87	69	14	3,630	16
	ラオス	2006	4,667	0	67	73	78	67	197	76	75	35	1,660	30
	ミャンマー	2012	6,938	239	66	93	75	50	178	81	72	—	1,270	—
	ネパール	1978	39,726	1,905	70	60	70	36	258	92	58	37	730	15
	パキスタン	1997	25,368	1,114	66	55	80	81	178	91	34	21	1,400	8
	フィリピン	1961	37,984	1,515	68	95	76	28	114	92	90	15	3,500	13
	スリランカ	1981	20,227	959	75	91	98	10	30	96	97	12	3,460	2
	タイ	1981	12,065	525	75	96	—	12	20	98	99	22	5,780	0
	東ティモール	2001	14,144	89	69	58	81	53	215	72	55	19	2,680	47
中南米	ベトナム	1993(再開)	33,620	2,392	76	94	90	22	54	98	96	11	1,890	3
	ボリビア	1969	42,880	1,014	69	92	97	38	206	90	76	22	2,870	8
	ブラジル	1997	17,339	193	75	90	—	16	44	98	96	36	11,530	5
	コロンビア	1962	21,018	728	74	93	83	16	64	91	97	23	7,970	6
	ドミニカ共和国	1987	24,018	546	74	90	79	31	92	85	88	37	6,040	2
	エクアドル	1962	40,620	1,116	76	92	89	22	64	87	92	22	6,090	4
	エルサルバドル	1976	35,131	849	73	84	84	17	54	94	99	25	3,920	3
	グアテマラ	1978	36,663	854	72	78	72	29	88	93	97	30	3,430	12
	ハイチ	1973	33,322	92	63	49	—	69	359	58	80	18	820	54
	ホンジュラス	1977	34,624	947	73	85	75	20	129	91	94	34	2,270	19
	ニカラグア	1994	27,012	602	75	78	—	22	150	87	85	41	1,870	11
	パラグアイ	1994	24,072	542	73	94	84	21	132	98	85	18	4,400	2
	ペルー	1994	25,040	641	75	94	91	17	68	87	97	19	6,360	4
東南アフリカ	エジプト	1981	33,081	1,271	71	72	96	24	33	99	99	17	3,050	—
	エチオピア	1995	32,389	691	65	39	37	59	353	57	7	41	550	34
	ケニア	1982	60,409	1,835	62	72	—	49	510	63	67	23	1,290	34
	マラウィ	1994	23,174	368	64	61	49	64	634	90	6	46	250	71
	モザンビーク	2007	12,692	88	55	51	31	79	489	51	48	48	600	69
	ルワンダ	2007	17,792	147	65	66	35	42	290	76	63	8	700	60
	南スーダン	2006 (独立前から 該当地域にて)	7,103	30	56	27	—	93	789	59	35	52	970	—
	スーダン	1977	30,118	443	64	74	80	70	311	56	67	33	1,710	15
	タンザニア	1991	31,001	673	66	68	67	49	398	79	15	37	920	47
	ウガンダ	1992	35,693	990	59	73	25	55	343	65	30	40	670	33
	ザンビア	1996	22,290	367	61	61	55	64	224	77	11	31	1,680	64
	ジンバブエ	1986	39,464	1,173	59	84	—	71	443	78	32	34	840	—
西アフリカ	ベナン	1994	24,395	281	60	29	53	100	405	82	85	32	890	53
	ブルキナファソ	1976	41,335	1,493	59	29	69	89	371	76	77	52	700	55
	カメルーン	1996	25,928	588	56	71	70	88	596	89	66	38	1,350	29
	ガーナ	1992	28,499	597	62	71	84	62	319	77	71	21	1,590	25
	ギニア	1989	31,764	711	59	25	53	94	679	79	58	52	470	35
	ギニアビサウ	1995	19,976	259	55	58	—	93	549	76	24	22	550	67
	リベリア	2006(再開)	12,250	0	61	43	68	70	725	77	25	36	370	69
	マリ	1974	28,045	490	58	31	62	115	587	58	81	55	650	49
	ニジェール	1998	21,620	278	62	15	64	96	553	69	64	76	410	50
	ナイジェリア	2014	0	0	53	51	79	109	814	79	30	43	2,970	54
	セネガル	1982	34,719	1,455	67	52	61	47	315	63	73	32	1,050	38
	シエラレオネ	1976	13,000	149	51	46	48	120	1,360	63	77	39	700	52
	トーゴ	1988	24,484	777	60	60	53	78	368	100	78	22	570	54
	日本	1983	—	—	84	—	100	3	5		100	—	42,000	—

※プランに関するデータは2017年6月30日現在のものです。それ以外のデータは、「ユニセフ 世界子供白書 2016」によります

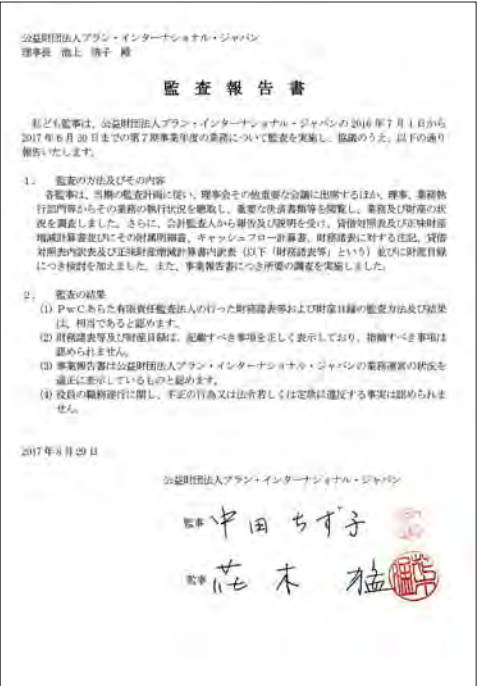
2017年度
公益財団法人プラン・
インターナショナル・ジャパン
決算報告 2016年7月1日～2017年6月30日

この決算報告は、PwCあらた有限責任監査法人および本財団監事による監査を受け、理事会並びに評議員会の承認を経て内閣府へ提出した財務諸表等の抜粋です。財務諸表等はウェブサイト <https://www.plan-international.jp> でご覧いただけます。

貸借対照表		2017年6月30日現在 (単位：円)
科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産	851,629,036	
2. 固定資産		
(1) 基本財産	200,000,000	
(2) 特定資産	589,815,911	
(3) その他固定資産	282,018,838	
固定資産合計	1,071,834,749	
資産合計	1,923,463,785	
II 負債の部		
1. 流動負債	99,708,295	
2. 固定負債	0	
負債合計	99,708,295	
III 正味財産の部		
1. 指定正味財産	789,815,911	
2. 一般正味財産	1,033,939,579	
正味財産合計	1,823,755,490	
負債及び正味財産合計	1,923,463,785	

正味財産増減計算書 2016年7月1日から2017年6月30日まで (単位：円)	
科目	金額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
①基本財産運用益	200,476
②受取寄付金	2,638,978,996
③特定資産運用益	161,761
④受取補助金等	508,326,216
⑤雑収益	2,030,039
経常収益計	3,149,697,488
(2) 経常費用	
①事業費	2,997,921,016
地域開発・緊急復興支援事業費	2,307,861,429
国際相互理解促進・啓発事業費	177,497,045
支援募集活動費	424,797,306
寄付金取扱事務費	87,765,236
②管理費	116,020,185
経常費用計	3,113,941,201
投資有価証券評価損益	△ 360,000
当期経常増減額	35,396,287
2. 経常外増減の部	
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	35,396,287
一般正味財産期首残高	998,543,292
一般正味財産期末残高	1,033,939,579
II 指定正味財産増減の部	
①受取寄付金	238,698,394
②特定資産運用益	2,835
③受取補助金等	612,761,569
④一般正味財産への振替	△ 741,029,009
当期指定正味財産増減額	110,433,789
指定正味財産期首残高	679,382,122
指定正味財産期末残高	789,815,911
III 正味財産期末残高	1,823,755,490

監査報告書



受取寄付金内訳（この表は監査を受けていません）（単位：千円）

寄付金の種別	経常収益
スポンサーシップ寄付金	1,789,342
マンスリー・サポーター寄付金	488,633
プロジェクト特定寄付金振替額	231,820
プロジェクト無特定寄付金	128,301
プロジェクト無特定寄付金振替額	882
合 計	2,638,978

受取補助金等内訳（この表は監査を受けていません）（単位：千円）

補助金等の名称	交付者	経常収益
日本NGO連携無償資金協力	外務省	142,550
草の根・人間の安全保障無償資金協力	外務省	19,921
NGO海外スタディプログラム	国際協力NGOセンター	307
安全な学校づくり	メトロバンクファウンデーション他	2,082
食糧安定供給	世界食糧計画	179,858
日本特別基金	米州開発銀行	16,465
緊急復興支援	アジア開発銀行	81,430
アルバート・アインシュタイン難民学術イニシアチブ	国連難民高等弁務官事務所	44,078
緊急対応基金	国際移住機関	21,635
合計		508,326

経常費用内訳（この表は監査を受けていません）

		活動国 プログラム費	広告・広報費	人件費	事務費	施設費	諸雑費	計
事業費	地域開発・緊急復興支援事業費	2,220,459	140	54,361	13,447	18,633	821	2,307,861
	国際相互理解促進・啓発事業費	-	7,812	71,279	54,244	43,491	670	177,497
	支援募集活動費	-	237,954	66,865	73,435	46,165	379	424,797
	寄付金取扱事務費	-	-	13,034	46,527	28,074	130	87,765
管理費		-	-	82,291	10,926	21,555	1,248	116,020
合計		2,220,459	245,906	287,830	198,580	157,918	3,248	3,113,941

事業一覧（この表は監査を受けていません）

		プラン・スポンサー シップ/プラン特 別プロジェクト他	Girl's Project	プラン 一般プロジェクト	プラン・マンスリー・ サポーター・ プロジェクト	緊急・復興支援	合計
地域開発・緊急復興支援事業費	アジア	バングラデシュ	バングラデシュ地域開発プロジェクト	48,395	-	-	48,395
			学校における水と衛生プロジェクト	-	-	16,816	16,816
			災害に強い学校づくり	-	-	5,900	5,900
		カンボジア	カンボジア地域開発プロジェクト	52,395	-	-	52,395
			学校給食による初等教育改善	-	-	209,967	209,967
		中国	中国地域開発プロジェクト	25,336	-	-	25,336
			インド	インド地域開発プロジェクト	73,724	-	73,724
				乳幼児の総合的栄養改善	-	-	51,689
			ストリート・チルドレンと働く子どもたち	-	-	41,789	41,789
		インドネシア	インドネシア地域開発プロジェクト	25,482	-	-	25,482
			公立職業訓練センターの能力強化を通じた若年女性の就業支援	-	42,443	-	42,443
			ジェンダー平等促進による中等教育環境改善	-	6,227	-	6,227
	東南アジア	ミャンマー	ミャンマー地域開発プロジェクト	24,617	-	-	24,617
			ネパール地域開発プロジェクト	87,569	-	-	87,569
		ネパール	女性への暴力撲滅・保護プロジェクト	-	32,886	-	32,886
			パキスタン地域開発プロジェクト	40,316	-	-	40,316
			子どもや女性への虐待防止	-	-	24,468	24,468
		フィリピン	災害に強い学校づくり	-	-	5,900	5,900
			フィリピン地域開発プロジェクト	44,438	-	-	44,438
			安全な学校づくり	-	-	2,651	2,651
			台風ハイエン被災者復興支援	-	-	81,785	81,785
		スリランカ	スリランカ地域開発プロジェクト	35,421	-	-	35,421
			タイ地域開発プロジェクト	20,136	-	-	20,136
	中南米	タイ	災害に強い学校づくり	-	-	2,952	2,952
			東ティモール地域開発プロジェクト	3,422	-	-	3,422
			ベトナム地域開発プロジェクト	84,628	-	-	84,628
			少数民族の栄養改善	-	-	628	628
			小学校建設	-	-	1,170	1,170
			アジア小計	565,880	81,556	72,954	290,975
		ポリビア	ポリビア地域開発プロジェクト	30,521	-	-	30,521
			学校衛生設備設置および衛生促進	-	-	2,485	2,485
			幼稚園建設	10,572	-	-	10,572

			プラン・スポンサー シップ/プラン特 別プロジェクト他	Girl's Project	プラン 一般プロジェクト	プラン・マンスリー サポーター・ プロジェクト	緊急・復興支援	合計
中南米	ブラジル	ブラジル地域開発プロジェクト	8,366	-	-	-	-	8,366
	コロンビア	コロンビア地域開発プロジェクト	20,994	-	-	-	-	20,994
	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国地域開発プロジェクト	15,856	-	-	-	-	15,856
	エクアドル	エクアドル地域開発プロジェクト	38,388	-	-	-	-	38,388
		エクアドル大地震緊急支援	-	-	-	-	134	134
	エルサルバドル	エルサルバドル地域開発プロジェクト	24,271	-	-	-	-	24,271
	グアテマラ	グアテマラ地域開発プロジェクト	24,596	-	-	-	-	24,596
		少数民族の栄養改善	-	-	27,371	-	-	27,371
		小学校建設	-	-	2,408	-	-	2,408
		小学校建設および衛生改善	9,918	-	-	-	-	9,918
	ハイチ	ハイチ地域開発プロジェクト	3,786	-	-	-	-	3,786
		水衛生環境改善	55,813	-	-	-	-	55,813
	ホンジュラス	ホンジュラス地域開発プロジェクト	27,253	-	-	-	-	27,253
	ニカラグア	ニカラグア地域開発プロジェクト	17,600	-	-	-	-	17,600
	パラグアイ	パラグアイ地域開発プロジェクト	15,827	-	-	-	-	15,827
ペルー	ペルー地域開発プロジェクト	19,165	-	-	-	-	19,165	
中南米小計		322,927	-	32,264	-	134	355,324	
東南アフリカ	エジプト	エジプト地域開発プロジェクト	39,899	-	-	-	-	39,899
		シリア難民の子どもの教育支援	-	-	-	17,507	-	17,507
	エチオピア	エチオピア地域開発プロジェクト	21,032	-	-	-	-	21,032
		東アフリカ食糧危機緊急支援	-	-	-	-	2,243	2,243
	ヨルダン	シリア難民の子どもの教育支援	-	-	-	16,030	-	16,030
	ケニア	ケニア地域開発プロジェクト	54,076	-	-	-	-	54,076
		東アフリカ食糧危機緊急支援	-	-	-	-	2,243	2,243
	マラウイ	マラウイ地域開発プロジェクト	10,807	-	-	-	-	10,807
	モザンビーク	モザンビーク地域開発プロジェクト	7,145	-	-	-	-	7,145
	ルワンダ	ルワンダ地域開発プロジェクト	4,424	-	-	-	-	4,424
		差別をなくすジェンダー教育プロジェクト	-	40,078	-	-	-	40,078
	南スーダン	南スーダン地域開発プロジェクト	9,266	-	-	-	-	9,266
		東アフリカ食糧危機緊急支援	-	-	-	-	2,243	2,243
	スーダン	スーダン地域開発プロジェクト	12,132	-	-	-	-	12,132
		国内避難民キャンプ水衛生改善	-	-	-	21,635	-	21,635
	タンザニア	タンザニア地域開発プロジェクト	19,104	-	-	-	-	19,104
	ウガンダ	ウガンダ地域開発プロジェクト	28,296	-	-	-	-	28,296
	ザンビア	ザンビア地域開発プロジェクト	10,393	-	-	-	-	10,393
	ジンバブエ	ジンバブエ地域開発プロジェクト	33,808	-	-	-	-	33,808
	若年層を中心とした感染予防と差別のない地域づくり	-	-	-	23,646	-	23,646	
東南アフリカ小計		250,382	40,078	-	78,818	6,730	376,007	
西アフリカ	ベナン	ベナン地域開発プロジェクト	7,411	-	-	0	-	7,411
	ブルキナファソ	ブルキナファソ地域開発プロジェクト	43,763	-	-	0	-	43,763
	カメルーン	カメルーン地域開発プロジェクト	18,579	-	-	0	-	18,579
		難民への奨学金支給	-	-	-	46,653	-	46,653
	ガーナ	ガーナ地域開発プロジェクト	16,476	-	-	-	-	16,476
		小学校建設プロジェクト	-	-	16,574	-	-	16,574
	ギニア	ギニア地域開発プロジェクト	19,163	-	-	-	-	19,163
	ギニアビサウ	ギニアビサウ地域開発プロジェクト	7,670	-	-	-	-	7,670
	リベリア	リベリア地域開発プロジェクト	1,334	-	-	-	-	1,334
	マリ	マリ地域開発プロジェクト	14,025	-	-	-	-	14,025
	ニジェール	ニジェール地域開発プロジェクト	8,031	-	-	-	-	8,031
	ナイジェリア	ナイジェリア地域開発プロジェクト	4,385	-	-	-	-	4,385
	セネガル	セネガル地域開発プロジェクト	45,206	-	-	-	-	45,206
	シエラレオネ	シエラレオネ地域開発プロジェクト	4,756	-	-	-	-	4,756
	トーゴ	トーゴ地域開発プロジェクト	21,909	-	-	-	-	21,909
		若年層の女性の経済的自立プロジェクト	-	34,186	-	-	-	34,186
	地域に根ざしたケアとリハビリテーション	-	-	-	10,962	-	10,962	
西アフリカ小計		212,708	34,186	16,574	57,614	-	321,082	
PII 国際本部	その他	153,250	-	-	-	-	153,250	
日本	熊本地震緊急支援	-	-	-	-	7,374	7,374	
	その他	1,674	-	-	-	-	1,674	
小計		1,506,820	155,820	121,791	427,407	96,023	2,307,861	
国際相互理解促進・啓発事業費		141,398	11,105	4,691	19,545	758	177,497	
支援募集活動費		241,042	49,148	22,584	108,143	3,881	424,797	
寄付金取扱事務費		64,563	7,066	2,987	12,430	718	87,765	
事業費計		1,953,824	223,139	152,053	567,525	101,380	2,997,921	
管理費		88,632	8,317	3,526	14,628	917	116,020	
経常費用計		2,042,455	231,457	155,579	582,153	102,297	3,113,941	

注記：合計欄の横に、アルファベットが振られている事業は、以下の国体による助成により実施した費用を一部含みます。

A 外務省 日本NGO連携無償資金協力、B 外務省 草の根・人間の安全保障無償資金協力、C 国際協力NGOセンター、D メトロバンクファウンデーション、E 国連世界食糧計画、F 米州開発銀行、

G アジア開発銀行、H 国連難民高等弁務官事務所、I 国際移住機関

2017年度プラン・インターナショナル 国際連結決算報告

2016年7月1日～2017年6月30日

これらは、プラン・インターナショナル支援国、活動国、国際本部の連結した財務状況を表示しています。世界の皆さまからのご支援により、収入は8億5,052万ユーロとなり、途上国の地域開発・緊急復興支援プロジェクトおよび政策提言、啓発等の事業に8億4,026万ユーロを支出することができました。詳しくは、プラン・インターナショナルのウェブサイト <http://plan-international.org/>(英文) でご覧いただけます。※1
ユーロは約124円です (2017年6月30日現在)

連結損益計算書および 連結包括損益計算書			2016年7月1日～2017年6月30日 (単位：1,000 €)	
科目	当年度	前年度		
I 収益				
スポンサーシップ寄付金	358,346	362,927		
受取助成金	291,907	273,965		
現物助成金	70,942	62,088		
その他寄付金	122,653	105,399		
受取利息	2,889	2,362		
事業収益	3,786	3,308		
収益合計	850,523	810,049		
II 費用				
プログラム費	638,633	615,934		
支援募集活動費	118,128	111,063		
管理費	79,992	67,221		
収益事業費	3,515	2,954		
為替損益計算前支出合計	840,268	797,172		
為替差損(益)	△1,526	9,063		
費用合計	838,742	806,235		
III 包括損益				
当期損益差額	11,781	3,814		
退職給付引当金見積変更	△177	△298		
有価証券評価損益	555	△583		
外貨換算調整	△4,683	△7,386		
当期包括損益差額	7,476	△4,453		

連結貸借対照表			2017年6月30日現在 (単位：1,000 €)	
科目	2017/6/30	2016/6/30		
I 資産の部				
流動資産				
現金および現金同等物	285,270	275,585		
売却可能有価証券	30,929	25,641		
満期保有目的有価証券	3,927	3,123		
未収金	45,498	33,712		
前払費用	12,032	10,627		
棚卸資産	1,673	1,368		
流動資産合計	379,329	350,056		
固定資産				
売却可能有価証券	6,214	6,231		
満期保有目的有価証券	600	2,347		
金銭信託等その他金融資産	1,011	1,035		
有形固定資産	19,270	21,901		
無形固定資産	11,042	13,338		
未収金	823	2,538		
固定資産合計	38,960	47,390		
資産合計	418,289	397,446		
II 負債の部				
流動負債				
当座借越	657	4,820		
未払金	28,256	20,890		
未払費用	32,847	25,765		
その他流動負債	5,152	-		
繰延収益	3,680	2,300		
退職給付引当金等	22,265	25,489		
流動負債合計	92,857	79,264		
固定負債				
借入金	1,713	1,779		
退職給付引当金等	1,475	1,290		
その他固定負債	3,664	4,009		
固定負債合計	6,852	7,078		
負債合計	99,709	86,342		
III 正味財産の部				
一般正味財産	76,351	94,230		
一時的指定正味財産	227,549	201,431		
永久的指定正味財産	14,680	15,443		
正味財産合計	318,580	311,104		
負債及び正味財産合計	418,289	397,446		

プログラム費国別内訳 (この表は監査を受けていません) (単位：1,000 €)

	保健	性と生殖に関する健康と権利	教育	水と衛生	家計の安定	子どもの保護	子どもの参加	緊急支援	開発教育	スポンサーシップ コミュニケーション	合計
アジア	バングラデシュ	4,259	2,982	708	2,016	357	2,208	988	1,117	986	15,620
	カンボジア	682	-	553	184	555	987	467	392	386	4,206
	中国	765	12	24	1,465	2,008	2,362	291	2,925	190	10,042
	インド	2,519	3,788	3,087	2,563	2,533	2,707	692	338	831	19,059
	インドネシア	5,211	348	3,074	2,301	924	765	498	1,456	471	15,047
	ラオス	361	-	3,358	664	△6	94	138	56	104	4,769
	ミャンマー	108	-	490	417	74	17	40	12,653	267	14,066
	ネパール	1,346	-	2,100	828	796	793	1,037	6,739	690	14,330
	パキスタン	263	328	726	7,806	3,309	749	351	228	426	14,187
	フィリピン	292	70	2,520	95	3,559	859	938	4,170	286	12,789
	スリランカ	708	-	792	607	517	410	567	50	357	4,007
	タイ	124	399	438	41	193	772	198	695	191	3,050
	東ティモール	225	49	565	466	403	298	200	517	520	3,244
	ベトナム	1,000	19	2,856	1,116	766	876	724	1,137	825	9,317
中南米	地域統括事務所(タイ)	38	192	327	67	401	505	365	1,539	412	3,845
	アジア小計	17,902	8,186	21,619	20,636	16,387	14,402	7,491	34,012	6,943	147,579
	ボリビア	1,822	1,143	695	134	750	314	470	512	1,148	6,988
	ブラジル	447	119	878	20	1,217	642	816	0	968	5,107
	コロンビア	3,046	92	523	-	996	2,019	2,453	1,295	1,716	12,141
	ドミニカ共和国	821	3	583	14	521	1,099	418	699	315	4,472
	エクアドル	156	875	1,911	30	514	909	972	2,104	974	8,446
	エルサルバドル	1,066	4,194	776	139	1,285	590	415	878	638	9,980
	グアテマラ	568	254	2,798	91	1,082	1,308	1,075	195	914	8,285
	ハイチ	1,439	10	1,586	862	174	142	363	3,320	492	8,387
	ホンジュラス	257	157	1,480	825	299	1,250	639	88	1,020	6,015
	ニカラグア	1,376	620	468	105	213	445	716	387	684	5,016
	パラグアイ	154	106	1,000	56	997	55	400	974	656	4,399
	ペルー	168	107	133	55	1,250	220	569	703	424	3,629
東南アフリカ	地域統括事務所(パナマ)	46	603	124	-	305	63	1,534	1,427	184	4,287
	中南米小計	11,366	8,282	12,956	2,331	9,603	9,058	10,840	12,584	10,133	87,153
	エジプト	969	1,166	546	91	848	833	1,495	3,067	941	9,956
	エチオピア	1,716	16	697	1,269	517	846	1,080	8,349	1,077	15,567
	ケニア	4,708	1,861	3,354	333	1,734	5,844	1,540	1,038	1,751	22,162
	マラウイ	591	1,812	1,155	3,197	788	661	1,073	7,143	264	16,684
	モザンビーク	514	294	1,170	678	483	28	93	129	366	3,756
	ルワンダ	631	60	1,102	124	163	447	628	2,319	334	5,808
	南スーダン	17	127	423	343	435	258	552	14,635	297	17,087
	スーダン	430	-	1,169	716	330	721	199	1,239	454	5,258
	タンザニア	791	253	1,685	1,774	1,736	1,369	849	3,023	954	12,434
	ウガンダ	2,067	1,212	1,784	1,093	1,027	1,394	1,619	942	1,078	12,215
	ザンビア	292	1,802	989	284	722	806	798	△0	1,025	6,719
	ジンバブエ	3,174	414	1,377	1,231	6,129	1,924	700	18,959	381	34,289
西アフリカ	ヨルダン含むパンアフリカ	3	17	9	△8	13	15	312	34	14	409
	地域統括事務所(ケニア)	396	221	110	58	184	184	1,154	662	444	3,412
	東南アフリカ小計	16,297	9,255	15,568	11,183	15,109	15,332	12,092	61,537	9,382	165,756
	ベナン	1,322	4,060	707	28	523	402	416	47	445	7,950
	ブルキナファソ	804	552	4,645	446	1,534	93	160	111	1,285	9,631
	カメルーン	3,615	215	2,055	195	532	612	243	3,198	871	11,538
	ガーナ	3,544	18	2,915	1,074	424	258	259	11	290	8,793
	ギニア	3,351	57	2,912	646	311	381	469	2,731	622	11,482
	中央アフリカ共和国	-	-	-	2	-	432	-	11,745	0	12,179
	ギニアビサウ	1,421	154	503	616	108	440	167	58	323	3,789
	リベリア	4,676	-	719	252	1,843	225	110	46	277	8,148
	マリ	638	3,256	2,513	1,175	237	24	59	2,011	1,303	11,217
	ニジェール	7,617	87	2,945	233	557	713	334	2,293	430	15,209
	ナイジェリア	3,492	-	124	90	-	-	30	2,024	6	5,766
西アフリカ	セネガル	4,498	37	488	382	368	374	375	26	892	7,440
	シエラレオネ	280	0	7,123	203	338	802	629	793	349	10,517
	トーゴ	1,554	1,694	1,815	1,009	424	1,181	766	220	596	9,258
	地域統括事務所(セネガル)	14	-	39	-	△12	90	1,252	1,299	680	3,363
	西アフリカ小計	36,826	10,130	29,503	6,351	7,187	6,028	5,270	26,614	8,368	136,277
	調整項目	△13	△5	△13	△6	△7	△7	△4	△21	1	△74
	活動国合計	82,378	35,849	79,634	40,495	48,279	44,814	35,689	134,726	34,827	536,691
	支援国	8,813	8,205	15,734	5,300	6,028	8,612	8,449	11,350	-	81,088
	国際本部	2,156	645	2,460	1,103	1,178	969	4,474	6,496	1,373	20,854
	合計	93,347	44,699	97,828	46,898	55,485	54,395	48,612	152,572	8,597	638,633

2017年度 プラン・インターナショナル 年次報告書

ANNUAL REPORT 2017
2016/7～2017/6



プラン・インターナショナルの目標

私たちは、子どもの権利が守られ、女の子が差別されない公正な社会を実現する

私たちは世界中の人々とともに、以下の活動を行う

1. 子どもや若者・地域社会が、女の子や、疎外され弱い立場にある人々への差別の根本原因を断ち切り、変革できるよう力づける
2. 子どもたちが直面している課題に対し、私たちの知識や経験を生かして、地域や国・国際社会が政策や意識・行動を変えていけるよう促す
3. 子どもたちや地域社会が、自然災害や紛争などの危機的状況に備え、対応し、困難を乗り越えられるようともに働く
4. 子どもたちが、誕生から大人になるまで、安全な環境のもと、健やかに成長できるよう支える



プランは、持続可能な開発目標 (SDGs) の策定に準備段階からかわかり、すべての活動を通じて目標の達成に取り組んでいます

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22
サンタワーズセンタービル 10F

TEL 03-5481-6100 FAX 03-5481-6200
(業務時間 / 土・日・祝日を除く 9:00～17:30)
service@plan-international.jp
www.plan-international.jp

●表紙撮影地 / ネパール ●この冊子は、1冊あたり約41円で製作されています



これは、JANICの「アカウンタビリティセルフチェック2012」マークです。JANICの「アカウンタビリティ基準」の4分野(組織運営・事業実施・会計・情報公開)について当団体が適切に自己審査したことを示しています。

